

そらとつちとみどりの会話

NOSAI かがわ

2017

1月

VOL.23

新春特集

農業を支える 盛り上げる

安心のネットワーク
NOSAI
香川県農業共済組合



新春特集

農業を支える盛りに上げる

温暖な気候に恵まれ、多彩な農産物が栽培されている香川県。代々受け継がれてきた農地を活用しながら地域農業の発展を目指し活動している農業者がいる。培った経営のノウハウを伝授しやる気のある農業後継者を育成また人手不足農家には作業支援でバックアップするなど香川農業を支える農業者を紹介する。



香川県知事
浜田 恵造

農家経営の安定に向けて

明 けましておめでとうございます。皆様方には、農業の振興をはじめ、県政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

また、去年は、農作物の被害を受けた農家の救済に一方ならぬご尽力をいただき、心から感謝いたしますとともに、被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

農業・農村を取り巻く環境が大きく変化するとともに、自然災害が頻発する中、農業経営の安定のために農業共済事業が果たす役割は、ますます重要になっています。

香川県では、農業の持続的発展と笑顔で暮らせる農村の実現に努めてまいりますので、皆様方には、今後とも、本県の農業振興と農家経営の安定に一層のお力添えをいただきますようお願いいたします。

また、本県では、依然として交通死亡事故が多発しておりますので、交通安全にご留意されますようお願いいたします。

新しい年を迎え、香川県農業共済組合のますますのご発展をお祈りいたします。



香川県農業共済組合長理事
田中 孝博

農家の声に応える事業運営を

謹 んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、組合員の皆様に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

昨年6月、組合長の大役を仰せ付かり、責任の重大さを痛感しつつ組合員のための組合運営に努力しているところです。

さて、去年は天候に恵まれ、県内水稻の作柄は比較的良好な年でした。一方、鳥害や獣害などは、依然として多い状況です。

全国的には、過去に経験したことのない甚大な自然災害が多発し、農家経営に大きな打撃となっています。このような中、政府では農業災害補償制度の見直しや収入保険の導入が検討されていますが、農業災害対策の柱として制度が果たす役割は、より重要性を増していると実感しています。

今後、損害防止事業の充実とともに、農業経営を支えるセーフティネットとしての機能を果たすため、さらに現場に足を運んで制度の普及活動に努めたいと考えています。皆様には、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新年のごあいさつ



本年もよろしくお祈り申し上げます

組 合 長	田中 孝博	副 組 長	石井 啓郎	監 事	代表 監 事	近藤 賢司	山内 清志	吉田 肇	川下 由行	合田 則夫	大矢 定夫	関野 正俊	小野 信夫	北山 一純	山崎 義行	宮崎 義忠	山崎 忠	草薙 洋博	射野 賀博	井上 好正	富田 安則	古川 義春	川松 義博	天雲 幸明	佃武 昭弘	佃武 昭弘	宮村 隆明	植村 昭弘	鹿谷 明弘	石川 明弘	石川 明弘
-------------	-------	-------------	-------	--------	--------------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



1 レタスの収穫適期を教える近藤さん
2 植え付けをする従業員ら
3 最盛期の1日出荷量は10t



経営に強い農家を育てる

一緒に農業を盛り上げる仲間づくり

農業のスペシャリストを育成

「作っているのは野菜ですが、育てているのは人材です」と株式会社近藤農園（平成20年1月設立）の取締役を務める近藤正敏さんは話す。同社では、株式会社化する10年以上前から日本の農業の将来を危惧し、就農希望者を積極的に受け入れてきた。毎年1〜2人が農業経営者として巣立っていく。

研修中、作物の生産技術はもちろん、農業簿記や農機具整備など、経営に強い農家になるためのイロハを一から教える。

独自の経営支援システムを確立

現在の農園経営は、主力のレタス25畝、ブロッコリー10畝を中心にネギ、スイートコーン、カボチャなどを海外からの研修生も含めた12人で周年栽培している。栽培面積は50畝になる。

個人経営を目指す従業員には、一通りの農業技術を学ばせると、独自の経営支援システム「一反経営」を体験させる。体験は就業時間内で実施し、一反分の農地や農機具、材料などの費用、全て同社が負担する。

体験者は、近藤さんが作成した体験例（図1）を基に、自身が目標とする利益や栽培作物を決める。一連の作業が終了後、栽培にかかった原価や作業時間などを算出する。損益計算書を作成し、決算まで行う。

「結果はあまり重要ではない」と近藤さん。成功した時、失敗した時の原因を見える化することで、独立後の自分の姿をはっきりと想像してもらおうことが一番の目的。「経営に必要な人、物、お金、時間の管理をデジタル化すると見えてくるものがあります。経営者目線で農業を考える機会作りです」と話す。

地域活性化のために

27年の香川県の農業就業人口は、10年前と比べると4割近く減少が進んでいる。また農業者の平均年齢は68・7歳と全国平均66・4歳より高くなっている。一方で、将来を担う新規就農者は17年度に42人だったのが、26年度は3倍以上の145人と着実に増加している。

高齢化による離農や後継者不足が耕作放棄地の増加を招いている現状の中、「これからの農業は絶対におもしろくなります」と言い切る。

正敏さんの父親が始めた後継者育成。正敏さんに経営移譲された今でも、基本的な理念「経営に強い農家を育てる」を基に、育成方法を少しずつ精練している。「これからは農業経営でできる仲間を増やし、地域を野菜で産地化したい」と前を向く。

近藤農園で学んだことを次の世代に



栽培面積
ネギ4.5ha、レタス2.5ha、
キャベツ0.5haなど

普通寺市普通寺町
つつみてつや
堤 哲哉さん (46)

近藤農園で4年、やさい畑で3年経験を積みました。とくにやさい畑に転籍してからは、経営を全て任されていました。

農業をデジタル化することで、経営者としての土台を作ることができ、感謝しています。ほかでは経験できない、濃密な時間を過ごせました。

独立して10年、雇用する側になり、就農希望者を受け入れるようにしています。自分の経験を次の世代にしっかり繋いでいきたいですね。

■ 体験例 一反=1000㎡でネギを育てた場合



図1 一反経営体験例

独立後もしっかりサポート

農業経験を積んだ従業員は、本人の希望、適正を判断し、そのまま同社に在籍するか、グループ会社の有限会社やさい畑、株式会社まっ赤なトマト工房などに転籍する。転籍先では、より一層の生産技術の習得、経営のノウハウを学び、実際に経営を任せることもある。

独立時に困らないよう、運転資金の調達や農地の確保などは一緒に行う。また、独立後も連絡をこまめに取り、経営の発展、定着をサポートする。

普通寺市与北町
株式会社 近藤農園

近藤 正敏さん (33)



事業を通じて地域に恩返し 産地とともに成長

意欲ある農家をサポート

平成27年9月に設立した「株式会社太陽の菰」。豊南地域で農作業を請負うほか、農作物の自社生産、販売も行う。同社代表取締役の黒川真吾さん（38）は「作業受託を通じて、地域の発展に尽力したい」と抱負を語る。

豊南地域では、経営拡大のために人手を必要とする新規就農者が増えている。一方で、意欲はあるが高齢のため杭打ち、運搬などの重労働が厳しくなったベテラン農業者も多い。地域が抱える問題を解決しようと、同社が受託する作業は定植や収穫、資材設置など多岐にわたる。設立から9カ月間で、依頼件数は580件、作業受託面積は85haにも及ぶ。

ベテランパートタイマーが活躍

作業委託を希望する農業者から連絡があれ

ば、まず作業内容や圃場を確認する。その後、正式に依頼を受ける。（図1参照）

業務は、従業員7人、パートタイマー17人で運営。人材を派遣するだけでなく、作業受託とすることが特色で、依頼者に提案する形で計画を立て、人員を配備して作業を差配する。場合によっては、依頼者に作付けする作物や作業計画を提案することもある。

作業にあたるパートタイマーのほとんどは、農作業40年以上のベテランで「年齢とともに個人での営農は難しくなったけど、慣れ親しんだ農作業を続けたかった」と働く動機を話す。その手練のわざは、黒川代表も脱帽するほどだ。

利用者からの信頼は厚く、農繁期に収穫作業などを依頼している岡上豊さん（37）は「急な



図1

天候の変化や、作付拡大の助っ人としてお世話になっていきます。今後も強力なパートナーとして、頼りにしていきます」と話す。評判が人づてに広まり、事務所には作業を依頼する農業者がひっきりなしに訪れる。

修行も兼ねた自社生産

生産地域の一員として、青ネギ1畝をはじめとした農作物の自社生産にも取り組んでいる。黒川代表は「自社生産は修行の場でもあります。業務の流れをつかみ、農作業全般に対する知識を深めることで、より効率的、効果的に作業できるよう、私も含めて成長できれば」と話す。

今年、作物の作業手順や肥培管理の経験値を高める研修の一環として、ロメインレタスを

はじめとした作付け品目の増加や、全体の作付面積の拡大を予定している。

作業内容とベテランスタッフの豊富さから、研修目的の就農希望者も入社している。

ともに発展を目指す

さらなる事業拡大のため、スタッフの増員と設備の拡充を計画中。今後の目標を「地域農業の支えとなることです。今は支えていただくことの方が多くありますが、いつか恩返しができるようにならなければ。地域と我が社、ともに発展する事で産地全体のブランド力を向上させたい。それを知った次世代が農業に可能性を感じ、将来の選択肢として意識してくれたら最高」と黒川代表は話す。



- 1 作業内容を打合せする黒川代表
- 2 朝、1日の業務を確認する
- 3 植え付け作業に取り組む従業員ら
- 4 黒川代表は「周囲の農家や職員の協力に助けられています」と話す



自社生産ネギを手に黒川代表(写真中央)

農作業

うけたまわります

観音寺市大野原町
株式会社 太陽の菰
黒川 真吾さん(38)



果樹共済「もも」

昨年の台風影響残り
着果減少

平成28年産ももは、27年7月の台風11号の影響が残った園地で着果数が減少しました。また、6月の多雨で落果被害、梅雨後半の高温多湿で果実が腐敗する被害も発生しています。
鳥獣被害も深刻で、サルに食べられ甚大な被害になった園地もありました。

半相殺減収総合 一般方式	
被害戸数	63戸
支払共済金	3,345,990円
支払日	平成28年11月21日

麦共済

品質低下で収入減少

播種適期の11月中旬以降に降雨が続いたため、平成28年産麦は、土壌水分が高い状況の中で播種作業になりました。土壌条件の悪い耕地では発芽不良となった他、播種作業の取り止めもありました。

その後の天候は回復し、最低気温ともに平年を上回る状態が続きます。生育は進み、特に幼穂形成期が早まった他、焼け熟れ現象などで粒張りが悪くなり、収量、品質ともに低下しました。

災害収入共済方式	
被害戸数	299戸
被害面積	1,492ha
支払共済金	90,335,488円
支払日	平成28年11月21日

駆除対策
ジャンボタニシ

冬場に取り組む対策

ジャンボタニシは、10月下旬から土中に浅く潜り込み、活動を開始する翌春まで越冬します。

休眠中の今の時期に適切な防除を行い、春作業に備えましょう。

用水路での対策

- ・貝を直接寒風にさらすと死滅するので、溝さらいは厳寒期に行うと効果的。
- ・用排水路での越冬量を減少させるため、用水を使用しない時期は落水する。



寒風にさらすと死滅する

水田での対策

- ・厳寒期に2回以上耕起し、貝を寒風にさらす。耕起深度はできるだけ浅く（5センチ程度）、ロータリーの回転速度は速く、トラクターの走行速度はできる限り落とす。代かき専用ロータリーを使用するとさらに効果が高い。

70周年
キャッチフレーズ
募集

平成29年12月に、NOSAI制度発足70周年を迎えるのを機に、キャッチフレーズを募集します。

主催=NOSAI全国
賞金等=最優秀作品10万円、優秀作品3万円、選外賞など
締め切り=29年1月31日
(郵送の場合は当日消印有効)
詳しくはNOSAIのホームページ
(<http://nosai.or.jp/>)をご覧くださいか、
☎03-3263-6413(NOSAI全国)にお問い合わせください



産直市 だより
商品すべて買い取り
と。の朝市

場所 高松市牟礼町原216の5
開催 毎週土曜日
時間 午前9時~11時
TEL 087-870-1137

主な販売品
地元農作物、惣菜、花、加工品
出品農家募集中

第40回書写コンクール
実を結んだ日ごろの鍛錬

平成28年10月15日、特賞10人と金賞14人の入賞者を招いて、表彰式を執り行いました。

審査委員の小森秀雲先生（香川県美術家協会名誉会長）から「皆さんの作品は、①字が正確である②筆の使い方に無理がない③全体の中で勢いがある④名前もきれいな——この4つすべての条件をマスターした素晴らしい作品でした」と講評いただきました。



全国農業共済協会長賞を受賞するなかうえ はると 中上 陽人さん(丸亀市立南中3年)

表彰式終了後、揮毫会*を開催。小森先生が指揮を執る中、受賞者は応募課題を半紙1枚に仕上げるといふ制約を気に留めることなく、手慣れた筆遣いで作品を仕上げていきます。

最後に小森先生から、書く姿勢と筆の持ち方の2点について、指導がありました。

*揮毫の「揮」はふるう、「毫」は毛筆の意。筆で書や絵画をかくこと。



慎重に筆を運ぶ受賞者

各支所の連絡先

東部支所	高松支所	小豆支所
さぬき市大川町 田面王子1-2 TEL..... 0879-43-4121	高松市三名町 東原5-6 TEL..... 087-888-1146 0120-58-1148	土庄町大木戸沖甲 5165-169 TEL..... 0879-62-0694
中讃支所	仲多度支所	三豊支所
坂出市川津町金山 1825-4 TEL..... 0877-46-1211	善通寺市与北町 山下110 TEL..... 0877-62-5970	観音寺市本大町 1378-3 TEL..... 0875-25-2482 0120-031-304

組合の主な動き

1月	17日 損害評価会ぶどう共済部会 25日 第7回理事会
2月	8日 損害評価会かき共済部会 9日 損害評価会家畜共済部会 家畜診療所運営委員会 15日 損害評価会大豆共済部会 20日 第4回余裕金運用管理委員会 第8回理事会 23日 園芸 損害評価会園芸施設共済部会

キトリ
宛先としてハガキに貼ってご活用ください。

クロスワードクイズ

今月のプレゼント 正解者の中から抽選で10名の方に、「グリーンアスパラガス」1*。(東かがわ市、こんちゃん農園)をお届けします。たくさんのご応募お待ちしております。

応募の宛先 〒761-8083 高松市三名町東原5番地6
香川県農業共済組合クロスワードクイズ係

応募締め切り 平成29年2月20日(月)消印有効 **当選者発表** 平成29年5月発行予定の25号で発表

郵便はがきに、①A~Dを順に並べたクイズの答え②郵便番号③住所④氏名(ふりがな)⑤年齢⑥電話番号⑦NOSAIや広報紙への意見、感想、質問⑧身近な情報などをご記入のうえ、ご応募ください。
※応募によって得られた個人情報、賞品の発送と今後の広報紙作成の参考意見とする以外の目的に利用しません。

1		2		3	4
		5	6	A	
7	8	C			
	9				
10			B		11
12			13		

- たてのカギ**
1. 大学は最高○○○と呼ばれています
 2. おじいさんは雪をかぶったお地蔵様に笠をかぶせました
 3. かんだ後は紙に包んでくずかごへ
 4. 「○○○ばむ」とは怒りをあらわすこと
 6. 鏡形砂絵が有名な琴弾公園は○○○○市にあります
 8. 組み合わせでよった糸
 10. たらば、ずわい、たかあし、といえ
 11. 歩行を助ける棒

- よこのカギ**
1. 外国の貨幣
 3. サスペンスドラマで犯人が追いつめられる場所
 5. 魚介類を酒にひたして蒸した料理
 7. カレーライスに添える、○○○漬
 9. 「鳩尾」の読み方
 10. 運が開けること
 12. ○○を追う者は一兎も得ず
 13. イノシシやシカなど、野生鳥獣の肉を表すフランス語

第21号 当選者発表
しゅうぶん
当選者 瀬戸のスイーツウェブの「小豆島ロールとパウンドケーキのセット」をお届けしました。
 高嶋 恵さん(東かがわ市)、久保 朝生さん(高松市)、細谷 清子さん(高松市)、富家 喜美代さん(高松市)、井藤 定子さん(土庄町)、西野 廣子さん(坂出市)、木村 壽美子さん(善通寺市)、谷口 彰宏さん(多度津町)、合田 純子さん(観音寺市)、森 ひとみさん(三豊市)

読者の声

■ わが家のイチジク、今までで一番たくさん収穫できました。(三木町 女性 61歳)

■ 琴平町の秋祭り、子どもたちが太鼓を叩くときの衣装がかわいくて感動しました。(丸亀市 男性 69歳)

■ 収穫を楽しみにしていたサツマイモがかじられました。またイノシシのしわざか、と腹が立ちました。(三豊市 女性 64歳)

■ 前号を見てのご意見

■ 株式会社さぬきベジファームは近くなのでよく知っています。会社組織の経営は、立派な若者の働く場としてよいと思いました。(さぬき市 女性 94歳)

■ 書写コンクールの子供達の作品に心が洗われました。すばらしい作品に感動です。(高松市 女性 67歳)

■ 最近、自然災害が多く発生しているので、総合共済への加入を検討しています。(綾川町 男性 63歳)

■ 原田さんの、錦鯉に夢中という気持ち、よく分かります。私も鯉から元気をもらっています。(まんのう町 男性 59歳)

■ たくさんのお便りをいただき、ありがとうございます。

さぬきひめ

子どもたちの成長が楽しみ

なかむら えり
土庄町 中村 絵里さん(30)

保育園の栄養士をして10年になります。子どもたちが食に興味を持って、楽しく食事ができるよう心掛けています。日々、成長する姿を見守るのは楽しみです。食は生きることの源なので、安全で安心な作物を提供してくれる農家の方には、感謝しています。趣味は手芸と料理で、今一番したい事は旅行です。毎日忙しく過ごしていますが、時間を作って、友達と一緒に厳島神社、姫路城など世界遺産巡りをしたいです。



Topics

備えは万全に 建物共済を推進中

近年は地震や台風、豪雨が相次ぎ発生し、自然災害による建物被害のリスクが増加しています。NOSAIの建物共済「住まいる」は、火災共済と総合共済の2種類あります。火災共済は、主に火災や落雷などの事故が対象です。総合共済は、火災を含め、風水害、土砂崩れ、地震、津波など自然災害の事故も補償します。補償額は、火災共済は1棟当たり6000万円が限度、総合共済は2000万円が限度です。合わせての場合は、6500万円まで加入できます。現在、地域ごとに建物共済の一斉加入推進を行っていますので、この機会に加入内容が十分か、確認をお願いします。火災共済のみに加入の方には、総合共済とセットでの加入をおすすめします。新規加入は随時、受け付けていますので、各支所までご相談ください。

火災共済の補償 プラス 自然災害

風水害・雪害
土砂崩れ
地震・津波 (共済金額の30%限度)

1棟当たり加入限度額 2,000万円

火災
外部からの物体の落下・衝突
破裂・爆発
盗難によるき損・汚損
落雷

給排水設備に生じた偶発的、突発的な事故による水ぬれ損。騒乱に伴う破壊行為による損害。
※長期間にわたり漏水している場合や発生時が特定できない場合は対象外です。

1棟当たり加入限度額 6,000万円

火災共済と総合共済合わせて1棟当たり 6,500万円まで加入できます。



● 材料(4人分)

- 米……………150g
- 金時ニンジン……………100g
- 刺身用オリーブハマチ……………100g
- ミディマト……………5個程度
- | | |
|---|-----------------------|
| A | 塩、コショウ……………適量 |
| | オリーブオイル……………大3 |
| | ワインビネガー(無ければ酢)……………大3 |
- パセリ……………適量

今回の食材

金時ニンジン



料理紹介者

野菜ソムリエ
料理教室「なあ〜ちえ」
(高松市木太町)
主宰
いけだ なお
池田 奈央さん



Point

ニンジン、油と一緒に摂取することでビタミンAが効果的に摂取できます。ポイントは、ご飯をしっかり冷ますこと。混ぜるときに粘りが出ず、生魚とも合わせやすくなります。ハマチは、ブリやタイで代用できます。

作り方



1 お米を洗い、沸騰させた鍋の湯で約13分ゆでる(パスタのようにたっぷりの湯で)。ザルにあげておく。



2 オリーブハマチを食べやすいサイズにカットし、塩、コショウで味付けする。トマトを一口サイズにカットする。



3 金時ニンジンを粗めにすり下ろす(細かいと水分が出るので、大根おろしのように粗く)。



4 ゆでたお米、トマト、金時ニンジン、オリーブハマチを合わせて材料Aで味付けし、仕上げにパセリをふる。

「次はミルクングパーラーを導入したい」と話します。頼もしい戦力です。

「牛が好きだったから」と、幼いころからの夢だった酪農経営を実現させているのは、さぬき市大川町の谷野良一さん(39)。平成11年に融資を受け、叔父から譲り受けた牛舎以外、ほとんどゼロから畜産を始めました。

小学生時代は、自宅の屋敷から叔父が経営する牛舎まで電車で通っていたほどの牛好き。卒業後、北海道の牧場で厳しい経験を積みましたが、「苦勞と思つたことはなかった」と振り返ります。徐々に頭数を増やし、現在は、搾乳牛50頭を飼養しています。



表紙の続き